

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		福祉課								
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります								
主要施策		_5. 支援を必要とする子どもや子育て家庭への支援の充実								
具体的施策		虐待や支援を必要とする子ども、DV被害の母親等への対応として、虐待・防止ネットワーク等の体制の充実を図ります。また、人権教育や講座等を通して、子どもの人権に対する意識を高める取組を推進します。								
事業名称		虐待・防止ネットワークの構築強化								
事業概要		関係各課、機関との連携を強化し、虐待・防止ネットワーク会議を開催します。								
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）					
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	
	広報誌等による相談窓口の情報提供		回	2	2	2	2	2	2	
	虐待・暴力防止ネットワーク会議での情報連携		回	4	4	4	4	4	4	
	相談件数 ※参考資料（実績）		件	334	363 (73)	381 (67)	254 (50)	231 (53)	200 (43)	
令和6年度	事業の目標と取組内容		相談件数は減少しているものの、課題や相談内容は多様化・複雑化している。様々な困難な問題に適切に対応していくため、引き続き相談体制の充実、相談員の質の向上を図る。また、相談者の状況に応じた最適な支援を行えるよう、継続して関係機関との連携を強化していく。							
	取組実績		女性相談員による相談業務（毎週月・火・金曜日）を実施し、11月の「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間に合わせて市のホームページや広報誌等による相談窓口の情報提供を実施した。また、虐待・暴力防止ネットワーク会議では担当者会議、実務者会議、代表者会議を実施し、関係機関との情報連携を行った。そこでも相談窓口周知のためのポスターやリーフレットを配布した。							
	目標達成に向けた今後の課題		女性の抱える問題は多様化・複雑化しており、DV被害男性の相談も受けている（例年1、2件ほど）。様々な困難な問題に適切に対応していくため、引き続き相談体制の充実、相談員の質の向上（県等実施の研修参加）、関係機関との連携強化等を継続する必要がある。相談窓口の周知を継続して行う。							
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	広報誌等による情報提供や虐待・暴力防止ネットワーク会議を行った。今年度も引き続き庁内及び関係機関と緊密な連携を図り、窓口の周知及び相談への適切な対応ができていると評価できるため。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		広報誌等による相談窓口の周知や情報提供・啓発を行った。虐待・暴力防止ネットワーク会議では、庁内及び関係機関と緊密な連携を図るとともに、現状を知るための講演会を行った。コロナ禍ではDVの啓発と窓口周知を行っている。相談内容は多様化・複雑化しており、継続して関係機関との連携を強化していく。							

評価基準：目標値に対する到達率

- A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。
- B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。
- C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。
- D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		1．子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_ 2．親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		快適で安全な妊娠出産のための妊娠期・育児期の対処方法の検討など、若年の妊婦・母親や育児不安の強い母親への支援の充実を図ります。							
事業名称		養育支援訪問事業							
事業概要		子育てに対して不安や孤立感を抱える家庭や、様々な原因で養育に支援が必要な家庭に対して、保健師等が訪問し、養育に関する具体的な指導・助言を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	指導・助言件数		人	77	80	80	80	80	80
					115	71	84	75	88
令和6年度	事業の目標と取組内容	支援の必要なケースに関しては、タイムリーに対応できるように、こども家庭センターと情報共有を図り、関係機関と役割分担を行いながら、支援体制を整えていく。							
	取組実績	養育支援が必要なケースは様々な課題を抱えており、必要に応じてこども家庭センターや各関係機関と情報共有、役割分担を行いながら支援を行った。							
	目標達成に向けた今後の課題	ケースの課題の早期発見や支援体制を整えるためにも、関係機関との情報共有や支援会議を行う。令和7年度からは健康増進課と子ども家庭センターと週に1回、合同会議を実施する。							
令和6年度評価	B	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	養育支援が必要なケースは、訪問や相談対応を行う中で、早期から各関係機関との情報共有や支援ができている。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	令和2年度から令和6年度にかけ、出生数は減少（330人→216人）しているが、支援が必要なケースは令和2年度から令和3年度にかけては減少したものの、その後は増加傾向にある。ケースに対しては、様々な課題を抱えていることもあり、各関係機関と情報共有しながら取り組んでいる。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を得ることができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を得ることができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		3．喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_ 2．親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		不妊治療、妊娠期での知識等の情報発信の充実や経済的負担の軽減を図ります。							
事業名称		妊婦健康診査等費用助成							
事業概要		妊婦が健康に妊娠期を過ごし、安全な出産ができるよう、また、出生した子供が健康に育つよう支援するため、母子保健法第13条の規定に基づき、妊婦健康診査等に要する費用を助成を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	助成件数		人	530	550	545	540	535	530
					483	460	419	374	343
令和6年度	事業の目標と取組内容	妊娠届出の適切な時期での申請について、周知啓発を医療機関の協力を得ながら実施する。妊娠届出時や妊婦訪問、伴走型相談事業等で、妊娠経過や妊婦健診受診結果の状況を踏まえた、保健指導や子育て支援サービス等についての情報提供を行っていく。							
	取組実績	令和6年度、妊婦健診受診者数343人。妊婦健診助成数は延べ2,612件。妊婦訪問は266件実施。							
	目標達成に向けた今後の課題	妊娠届出の時期は、妊娠11週以内が94.8%とほとんどであり、適切な時期での申請となっているが、中には遅い週数での届け出もあり、妊娠中から支援を必要とする場合もある。関係機関と連携を図りながら、安心・安全な妊娠、出産ができるよう支援していく必要がある。							
令和6年度評価	B	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	妊娠届出があった方へは、妊婦健診の助成が受けられる受診券を発行できているが、出生数が減少しており、助成件数も減少傾向となっている。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	妊娠届出の適切な時期での申請について、医療機関の協力を得ながら周知啓発を行い、妊婦健診の助成ができている。このことにより、経済的負担の軽減にもつながっている。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		3．喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_2．親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		不妊治療、妊娠期での知識等の情報発信の充実や経済的負担の軽減を図ります。							
事業名称		不妊治療費助成事業							
事業概要		不妊治療を受ける夫婦の経済的な負担軽減を図るため、保険適用となる不妊治療費の一部の助成を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	一般不妊治療の治療者数		人	15	15 9	15 10	18 -	18 -	20 -
	特定不妊治療の治療者数		人	25	25 23	25 24	28 -	28 -	30 -
	不妊治療助成申請者数		人	40			30 26	30 31	30 35
令和6年度	事業の目標と取組内容		現在の本事業は保険適用後の一部負担金に対し少額であっても助成するものであり、保険適用に加え経済的な負担軽減につながるため、不妊治療にさらに取り組みやすくすることで少しでも少子化に歯止めをかけることを目標とし、ホームページ等での周知を継続していく。						
	取組実績		令和6年度の助成申請者35名のうち、18名が妊娠届出を提出し、そのうち10名が出生届出済（双子あり、こどもは11名の出生）。7名は妊娠中。1名は死産。不妊治療助成は年々増加傾向にある。						
	目標達成に向けた今後の課題		令和6年度も助成申請者は目標値を上回っており、今後も不妊治療を受ける夫婦の経済的な負担軽減を図るため、助成制度についての周知継続が必要。						
令和6年度評価	A		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	不妊治療の助成をすることで、経済的な負担軽減につながっている。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		不妊治療を行う夫婦は年々増加傾向にある。また、不妊治療に取り組む年齢も幅広くなってきており、今後も増加していく可能性があるが、助成を行うことで経済的負担の軽減につながり、少子化への取り組みとしては必要。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		1．子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_ 2．親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		救急・夜間小児医療に対応できる体制の構築に努めます。							
事業名称		小児救急地域医師研修事業							
事業概要		医師研修及び適正受診への住民啓発による小児医療の充実を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	小児医療体制の満足度		%	36.7	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0
					33.7	36.3	28.0	28.9	30.9
令和6年度	事業の目標と取組内容		地域医師会と連携し、小児医療体制の充実を図れるよう取り組んでいく。						
	取組実績		鹿本医師会への委託事業により小児救急地域医師研修会を実施した。また、小児医療専門書籍を医療機関へ配布することによって小児医療体制の充実を図った。						
	目標達成に向けた今後の課題		地域医師会と連携し、小児医療体制の充実を図る。						
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	地域医師会と連携し、小児医療に関する研修会の開催及び専門書籍の配布を行い、小児医療体制の充実を図るよう努めた。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		地域医師会との連携による小児医療体制の強化を図った。今後、更なる充実を目指していく必要がある。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		1．子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_ 2．親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		救急・夜間小児医療に対応できる体制の構築に努めます。							
事業名称		在宅当番・救急医療情報提供実施事業							
事業概要		休日、救急医療体制整備及び情報提供による小児医療・小児休日診療の充実を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	小児医療体制の満足度		%	36.7	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0
					33.7	36.3	28.0	28.9	30.9
令和6年度	事業の目標と取組内容		地域医師会と連携し、小児医療体制の充実を図る。						
	取組実績		在宅休日当番医による輪番制当番診療を行い、休日における初期救急患者の診療体制を確保した。（診療日数72日、実施医療機関のべ142回）						
	目標達成に向けた今後の課題		地域医師会と連携し、小児医療体制の充実を図る。						
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	在宅休日当番医による輪番制当番診療を行い、休日における初期救急患者の診療体制を確保した。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		地域医師会との連携による小児医療体制の強化を図った。今後、更なる充実を目指していく必要がある。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		1．子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_ 2．親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		救急・夜間小児医療に対応できる体制の構築に努めます。							
事業名称		病院群輪番制病院運営事業							
事業概要		夜間、救急医療体制整備及び情報提供による小児医療・小児夜間、救急診療の充実を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	小児医療体制の満足度		%	36.7	37.0	38.0	39.0	40.0	41.0
					33.7	36.3	28.0	28.9	30.9
令和6年度	事業の目標と取組内容	鹿本地域二次救急医療圏の本事業実施病院と連携し、小児医療体制の充実を図る。							
	取組実績	鹿本地域二次救急医療圏の本事業実施病院による輪番制当番診療を行い、休日・夜間における重症救急患者の診療体制を確保した。（診療日数365日、実施医療機関のべ1,748回）							
	目標達成に向けた今後の課題	鹿本地域二次救急医療圏の本事業実施病院と連携し、小児医療体制の充実を図る。							
令和6年度評価	B	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	鹿本地域二次救急医療圏の本事業実施病院による輪番制当番診療を行い、休日・夜間における重症救急患者の診療体制を確保した。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	鹿本地域二次救急医療圏の本事業実施病院との連携により、休日・夜間における重症救急患者の診療体制は確保できた。引き続き、小児医療体制の充実を図る必要がある。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		健康増進課							
基本目標		1．子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_ 2．親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		救急・夜間小児医療に対応できる体制の構築に努めます。							
事業名称		医師修学資金貸与事業							
事業概要		市民医療センター医師（小児科含む）を確立するため、その就学に必要な資金を貸与します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	医師の新規就労者		人	0	0	0	2	0	0
					0	0	0	0	1
令和6年度	事業の目標と取組内容		広く周知活動を実施し、人材確保に努めていく。						
	取組実績		被貸与者1名について、令和6年4月より山鹿市民医療センターの小児科医師として勤務を開始することができた。						
	目標達成に向けた今後の課題		医師修学資金貸与事業については上限5名に達しており、被貸与者4名の現況調査を行いながら着実な就労を目指す。						
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	令和4年度の目標であった医師の新規就労者2名について、今年度1名の就労を開始することができた。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		令和6年度に念願の医師修学資金貸与事業の被貸与者である小児科常勤医1名を確保することができた。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を得ることができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を得ることができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		保育ニーズに即した幼児教育・保育サービスを提供するため、教育・保育施設及び地域子ども・子育て支援事業の量の確保、施設の充実を図ります。また、幼稚園教諭や保育士などの人材を確保するとともに、主体的な研修参加を促進し、幼児教育・保育の質の向上と内容の充実を図ります。							
事業名称		量の見込み及び確保方策							
事業概要		量の見込みに対して、現在の教育・保育施設での受け入れが可能であるため、需要に応じた利用定員を設定することで対応します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	待機児童数 0		人	0	0	0	0	0	0
					0	0	0	0	0
令和6年度	事業の目標と取組内容	私立園の利用定員適正化を図るとともに、公立園においては受け入れ体制を強化する。							
	取組実績	待機児童はなかったが、特定園希望のケースに対応できない（潜在待機児童）ケースもあった。							
	目標達成に向けた今後の課題	年度途中の申し込み全てに対応できるかが今後の課題である。							
令和6年度評価	A		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	待機児童は0であるため。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		私立園の利用定員適正化を例年図ってきた。公立園においては受け入れ体制を強化してきたが、1園で特定園希望のケースに対応できないことがあった。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		幼稚園・保育園・子育て支援関連施設によるネットワーク会議を継続して開催するとともに、研修体制の構築や小学校とのきめ細かな連携を図り、全ての子どもが共に成長できるように一人ひとりの発達に寄り添うインクルーシブ保育に取り組みます。							
事業名称		教育・保育の質の向上							
事業概要		スクラム会議委員で研修内容を検討し、山鹿市内保育園等職員研修会を開催し、職員全体の資質向上を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	研修会の開催回数	回		1 0	3 0	3 2	3 2	3 2	
			研修会参加者数（延べ）	人		200 0	500 0	500 264	500 265
令和6年度	事業の目標と取組内容	現場からの意見要望を聞き、研修のあり方や内容を精査し研修計画を立てる。開催回数の目標も達成できるようにする。							
	取組実績	対面形式の研修会を2回実施。 1) こども・家庭支援の研修 2) 人権の研修							
	目標達成に向けた今後の課題	以前から要望の多い実技研修やその他、参加者の要望に応えた研修の中身を検討する。保育士の保育の質の向上に向けた研修会を開催し、意欲的な参加を目指す。							
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	参加者からは多くの感想がでたことで、好評だったことが伺える。今後も参加者が業務に活かすことができるような研修を要望等を受けながら、検討し開催をしていきたい。開催回数の目標も達成できるようにしたい。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		コロナ禍により、前半について実施が叶わなかったが、後半にかけては対面式で年に2回程度開催することができた。参加者からの感想から研修内容についても概ね良好であった。しかし、開催回数を3回という目標については目標達成することができなかった。また、参加についても目標の半数程度に留まってしまった。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		幼稚園・保育園・子育て支援関連施設によるネットワーク会議を継続して開催するとともに、研修体制の構築や小学校とのきめ細かな連携を図り、全ての子どもが共に成長できるように一人ひとりの発達に寄り添うインクルーシブ保育に取り組みます。							
事業名称		インクルーシブ保育							
事業概要		公私立保育園・認定こども園・幼稚園インクルーシブ保育コーディネーター会議を開催。特別支援員や療育相談員を交えて会議を行い、生活しやすい環境づくり、支援の在り方を学びあい、全ての子どもが共に成長できるよう小・中学校と連携を図り繋いでいきます。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	コーディネータ会議参加率		%		95	95	95	95	95
					84	75	74	74	63
	コーディネーター会議参加園数		園		19	20	20	21	21
				19	14	14	14	12	
令和6年度	事業の目標と取組内容	関係機関との連携をさらに深め、各園のコーディネーターを中心に、一人ひとりの発達に寄り添うインクルーシブ保育の実践に取り組む。 コーディネーターとしての役割が発揮できるよう、その育成を目指す。							
	取組実績	◎コーディネーター会議を3回実施 第1回・・・「小学校との連携」をテーマに鹿本小学校の稲葉先生による講演会を実施した。 第2回・・・インクルーシブ保育について振り返りから今後に向けて共通理解を図った。 また、公立園の取組実践を発表し意見交換を行った。 第3回・・・各園から「コーディネーターとしての事例」を発表し意見交換を行い学びを深めた。 ◎「だれひとりとりこぼさない保育」を目指し、公立園（5園）公開保育を実施した。							
	目標達成に向けた今後の課題	公私立園でインクルーシブ保育に取組始めた時のスローガンが「山鹿市のどの施設を利用しても同一の方向性を持った質の変わらない支援を受けることができる」だったが、年々参加園が少なくなり、意識が薄れていっている。							
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	具体的な支援のあり方やコーディネーターとしての役割を学ぶことができた。アンケート調査の結果も良好で、次年度への取組につながるものだった。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		関係機関との連携が深まり、各園のコーディネーターを中心に、「だれひとりとりこぼさない保育」の実践に取り組むことができた。また、コーディネーターとしての役割が発揮できるようになってきた。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2．地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1．地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		子育て支援の地域拠点として、地域子育て支援センター5か所において、乳幼児から若者（概ね18歳）を対象に、関係機関と連携を図りながら、子育て支援に取り組みます。							
事業名称		地域子育て支援拠点事業							
事業概要		乳幼児及び、その保護者が相互の交流を行う場の提供をし、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	子育て家庭への訪問率		%		80	83	86	88	90
					77	56	69	79	83
令和6年度	事業の目標と取組内容	関係機関と連携し、子育て親子の情報共有を図るとともに、交流の場の提供や子育て家庭の訪問等を行い、育児不安の軽減や孤立化の解消に努める。							
	取組実績	訪問対象件数142件中、訪問件数は118件であった。訪問時に相談を受けることも多く、子育て支援センターの利用につながるなど、育児不安の軽減や孤立化の解消に努めることができている。							
	目標達成に向けた今後の課題	連絡がつかない家庭や、訪問をお断りされる家庭に対する情報提供および状況把握が難しい。							
令和6年度評価	B	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	訪問率は83%とおおむね達成することができた。見守りの必要な家庭に対して繰り返し訪問を行い、状況把握に努め、関係機関と連携を図りながら子育て支援に努めた。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	・コロナ禍は特に子育て支援センターの利用制限がある中、子育て家庭へ戸別に訪問することで、「話ができよかった、相談できてよかった」という声が多くきかれ、育児不安や孤立感の軽減につながった。今後も、交流の場の提供や家庭訪問等行い、関係機関との連携を図りながら子育て支援に取り組む。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2．地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1．地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		地域の身近なところで、子育て世代のための包括的な子育て支援の充実を図るために、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の構築に努めます。							
事業名称		子育て支援講習・講座の開催							
事業概要		妊娠期から乳幼児期の親の子育て力を高め、保護者が自信をもって子育てができるよう講習・講座を開催し、学びの充実を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	講習・講座開催回数		回	19	19 3	19 5	19 7	19 7	19 7
令和6年度	事業の目標と取組内容		妊娠中から子育て中の保護者が自信をもって子育てができるよう、講習・講座を開催していく。						
	取組実績		妊娠中の夫婦を対象にした「プレパパ・ママ教室」を年3回、生後2～5か月の第1子を育てる母親対象の「親子の絆づくりプログラム」を年4回（1回につき4回連続）計画し、開催することができた。離乳食教室については、今年度も開催することができなかった。						
	目標達成に向けた今後の課題		離乳食教室はニーズの高い講座でもあり、次年度開催にむけて健康増進課等も協議しながら実施方法を検討していく。						
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	2つの講座に関しては計画通り開催することができ、妊娠期から乳児期における学びの機会となっている。特にプレパパプレママ教室については毎回定員を上回る申し込みがあり、教室以外で沐浴体験を実施するなどの対応も行った。令和7年度は、年4回の離乳食教室を開催予定。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		コロナ禍により計画通りに事業を実施することは難しかったが、可能な範囲で講座を開催し、妊娠中及び子育て中の保護者に対して学びの機会を作ることができた。今後も、保護者が自信をもって子育てができるような講座の内容を検討しながら開催していく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2．地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1．地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		地域の身近なところで、子育て世代のための包括的な子育て支援の充実を図るために、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援体制の構築に努めます。							
事業名称		利用者支援事業							
事業概要		妊娠期から子育て期における様々なニーズに対し、情報収集と提供を行い、必要に応じ相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡調整を行うなど、母子保健と子育て支援の両面から切れ目のない支援を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	周知のための第1子出産家庭訪問率		%		100 83	100 87	100 82	100 94	100 93
令和6年度	事業の目標と取組内容		関係機関との連携を図り、妊娠期から子育て期における様々なニーズに対し、訪問等により情報収集と提供を行い、必要に応じ相談・助言等を行う等、総合的相談や支援を実施していく。						
	取組実績		母子手帳交付や第1子出産家庭への訪問時に事業の周知を行うとともに、相談内容や家庭の状況などに応じた情報提供及び利用支援を行った。（第1子訪問：76件(対象82件)、母子手帳交付時の情報提供：172件)) また、必要に応じて関係機関と情報共有・連携しながら支援を行った。						
	目標達成に向けた今後の課題		連絡が取れない家庭や転入家庭などへの情報提供や、必要に応じた相談支援が行えるよう各関係機関との連携が必要である。						
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	訪問率が100%には至らなかったが、訪問ができなかった家庭に対しても健診時や地区担当保健師等との連携により情報提供を行い、相談対応に当たることができている。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うために事業の周知に努め、様々なニーズに対し、関係機関と連携した情報提供や相談支援を行うことができた。今後も、子育て家庭の身近な相談場所として事業を実施するとともに、子育て家庭へ出向いた支援も継続し、関係機関との連携強化にも努める。						

評価基準：目標値に対する到達率

- A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。
- B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。
- C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。
- D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課	子ども課							
基本目標	1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策	_1. 地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策	幼児教育・保育の無償化の実施により、子ども達の生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育の機会を保障するとともに、子育て世代の経済的な負担軽減を図ります。							
事業名称	幼児教育・保育の無償化							
事業概要	令和元年10月施行の幼児教育・保育の無償化により、3歳児クラスから就学前まで及び、住民税非課税世帯に係る2歳児クラスまでの保育料が無料となり、子育て世代の経済的な負担軽減を図ります。							
成果指標	指標名	単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
			R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	※成果指標なし							
令和6年度	事業の目標と取組内容	引き続き丁寧な窓口対応に努め、情報発信の強化及び手続きの簡素化を図る。						
	取組実績	窓口手続き時に、資料を見せながら説明を行った。						
	目標達成に向けた今後の課題	HPによる制度周知や情報発信を強化し、窓口手続きの簡素化にも取り組む必要がある。						
令和6年度評価	B	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	保護者への説明を丁寧に行うことで保護者の理解は得られていると思われるため。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	引き続き丁寧な窓口対応に努めることができた						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課								
基本目標		3．喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します								
主要施策		_1．地域における子育て家庭への支援の充実								
具体的施策		特定教育・保育施設等を利用する2号認定で多子世帯第3子以降の子どもの副食費について無償化を実施し、多子世帯の負担軽減を図ります。								
事業名称		多子世帯への支援								
事業概要		1号認定（小学3年生から数えて第3子以降）と2号認定（特定教育・保育施設等を利用する第3子以降）の多子に係る副食費を免除します。 また、県と市の独自事業として、18歳以下から数えて第3子以降の2号認定に係る副食費も免除します。								
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）					
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	
	※成果指標なし									
令和6年度	事業の目標と取組内容	受付時の確認を丁寧に行い、適用漏れを防止する。								
	取組実績	入所申込受付時に兄弟がいらないか確認を行い、保護者への丁寧な説明を実施した。								
	目標達成に向けた今後の課題	入所申込書様式の改善や受付時の確認方法について再検討する。								
令和6年度評価	B	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	多子世帯の負担軽減におおむね寄与することができたと思われるため。							
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	受付時の確認を丁寧に行い、適用漏れを防止できた。								

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		3．喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_1．地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		保護者の多様化する就労形態や育児疲れによる保護者の負担軽減など、多様な保育ニーズに対応するため、通常教育や保育、延長保育事業、病後児保育事業、一時保育事業、預かり保育などのきめ細かな保育サービスの充実や量・質の確保を図ります。							
事業名称		延長保育事業							
事業概要		保護者の就労、勤務時間等のやむを得ない理由で保育時間の延長が必要な園児に対し、通常の保育時間を超えて保育を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	延長保育利用者数（延べ）		人	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000
					9,460	11,344	5,936	9,749	6,099
令和6年度	事業の目標と取組内容	保護者のニーズに対応するための体制づくりに努める。							
	取組実績	保護者の負担軽減を図ることができた。							
	目標達成に向けた今後の課題	保護者の働き方が多様化する中、ニーズに対応できる体制づくりが重要である。							
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	保護者のニーズに対応できている					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		保護者のニーズに対応するための体制づくりが概ねできた。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課	子ども課								
基本目標	2．地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます								
主要施策	_1．地域における子育て家庭への支援の充実								
具体的施策	保護者の多様化する就労形態や育児疲れによる保護者の負担軽減など、多様な保育ニーズに対応するため、通常教育や保育、延長保育事業、病後児保育事業、一時保育事業、預かり保育などのきめ細かな保育サービスの充実や量・質の確保を図ります。								
事業名称	病後児保育事業								
事業概要	病気や病後回復期にある児童を一時的に預かることにより、保護者の子育てと就労の両立支援を行います。								
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	利用申請に対する受け入れ率		%	88	90 95	90 95	90 92	90 82	90 88
令和6年度	事業の目標と取組内容	・R5年度 利用予約キャンセル64件のうち当日朝キャンセルが42件を占める。お断りが70件で、キャンセル数が減少すればお断りを減少させることができる。保護者に利用するにあたってのマナーを厳守してもらうよう周知徹底していくと共に、利用前日に電話連絡するなど利用有無の再確認をしていく。							
	取組実績	・R6年度 利用予約キャンセル29件のうち当日朝キャンセルが22件であった。お断りが24件で、キャンセル数が減少したことにより、お断り数を減少させることができた。							
	目標達成に向けた今後の課題	・今後も継続してお断り数を減少させ、受入率の向上を目指す。							
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	・利用前日に電話確認をしたことで、当日キャンセルが減少したことに対しては、一定の成果があった。しかし、受入率においては、目標値を上回ることができなかったことから、今後も継続して取組んでいきたい。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		・5年間で平均約188名が利用されており、受入率では平均90.4%、お断り件数が平均約19名となっている。今後、更に私立病後児保育施設と連携し、お断りすることなく、私立の2施設への連携による受入を推進できるよう連携強化を図る。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		3．喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_1．地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		保護者の多様化する就労形態や育児疲れによる保護者の負担軽減など、多様な保育ニーズに対応するため、通常の子育てや保育、延長保育事業、病後児保育事業、一時保育事業、預かり保育などのきめ細かな保育サービスの充実や量・質の確保を図ります。							
事業名称		一時預かり事業・一時保育事業							
事業概要		一時預かり事業：幼稚園や認定こども園の教育時間終了後に在園児を預かります。 一時保育事業：保育園や幼稚園などに入園していない乳幼児で、保護者の病気、入院、災害、事故等の理由により保育園等で緊急・一時的に預かる保育です。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	預かり保育利用者数（延べ）	人	600	600	600	600	600	600	
				572	536	115	202	538	
	一時保育事業利用者数（延べ）	人	500	500	500	500	500	500	
				577	641	393	422	576	
令和6年度	事業の目標と取組内容		各種窓口やHP等による制度周知の充実						
	取組実績		昨年度との比較すると増加している。電話・窓口対応で制度の説明を行った。						
	目標達成に向けた今後の課題		制度の周知及び、ニーズに対応する人材（保育士等）の確保・維持が重要である。						
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	ニーズにはある程度対応できている。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		各種窓口やHP等による制度周知が概ねできている。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2．地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1．地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		仕事と育児の両立等、安心と温もりある子育て支援として、ファミリー・サポート・センター事業やみんなの居場所づくり事業に取り組みます。また、事業内容の周知や会員登録の推進を図るとともに、利用しやすいサービスの構築を図ります。							
事業名称		子育て援助活動支援事業							
事業概要		児童の預かり等の支援を受けることを希望する者と援助を行うことを希望する者との相互援助活動に関する連絡、調整を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	依頼会員数		人	245	240	250	260	270	280
					215	232	232	203	196
令和6年度	事業の目標と取組内容	周知活動については、継続していき、個別に説明を行いながら、利用者の増加を目指す。							
	取組実績	依頼会員数において、R5年度に引続き見直しを行い対象児童（育児の援助を必要とする乳幼児から学童期までの児童及び市長が認める者）ではなくなった依頼会員を対象に、協力会員への協力依頼（切替）を行った。							
	目標達成に向けた今後の課題	ファミリー・サポート・センターを運営する社会福祉協議会と、更に利用しやすい制度の見直し等を協議していく。							
令和6年度評価	B	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	山鹿市内の児童の数が減少傾向に比例してなのか、依頼会員数が減少傾向にある。併せて利用数も減少している。 そこで、近隣市町村の運営状況を調査し、本市との相違点等の洗出しを行ったことから、今後の事業継続に向け、社会福祉協議会と協議を重ねていく。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	令和4年度より周知・広報活動を強化しているが、依頼会員はほとんど伸びず、利用者数においては、定期利用者が利用することで延べ件数はあるものの、実件数は少ない。また、令和6年中に実施したニーズ調査では、利用意向が無いものとして一番高かった。 そこで、今後の事業継続に向け、社会福祉協議会と協議を重ねていく。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課								
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります								
主要施策		_1. 地域における子育て家庭への支援の充実								
具体的施策		山鹿市放課後児童クラブガイドラインに基づき、受け入れ体制の充実と質の向上を図ります。また、障がい児受け入れや、支援を要する児童へよりよい対応を行うため、職員の専門性の向上を目的とした研修を実施します。								
事業名称		放課後児童健全育成事業								
事業概要		就労等により保護者が昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、放課後等に適切な遊び及び生活の場を与え、その健全な育成を図ります。								
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）					
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	
	放課後児童支援員認定資格新規取得者数		人		5	5	5	5	5	
					8	11	13	4	10	
	市主催研修会受講者数（延べ）		人		250	250	250	250	250	
					117	76	123	157	149	
県資質向上研修受講者数（延べ）		人		40	40	40	40	40		
				21	43	10	4	32		
令和6年度	事業の目標と取組内容		支援員として人材確保に努め、認定資格新規取得者の促進を図り、目標達成を目指す。							
	取組実績		認定資格新規取得者数は、目標値と比較して2倍の取得者を確保することができた。							
	目標達成に向けた今後の課題		市主催の研修会への参加においては、会議室や駐車場の空き状況により各児童クラブ支援員当たり2回までと制限をかけて研修会を実施している。今後は、現状の受講者数を維持し、県の資質向上に向けた研修受講者の向上を目指し、周知・情報提供に努める。							
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	支援員が研修会等へ参加することで、質の向上における成果が期待できた。また、放課後児童クラブを利用する児童の増加、その内、特別な支援を必要とする児童も15%を占めるようになっており、より質の高い保育が求められていることから、今後も研修等を継続し、質の向上に努めていく。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		5年間で、放課後児童クラブの利用児童数は約100名増加し、うち特別な支援を必要とする児童の数は約2倍に増加している。 市主催研修会受講者数の目標値は、現状から下方修正し、支援員の保育の質の向上に向け、取組は継続したい。また、県が主催する資質向上研修への受講者数を増加させるため、周知・情報提供に努めていく。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2．地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1．地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		ショートステイ・トワイライトステイ事業は、子育て支援の一環として緊急時の対応も含めて事業を継続していくとともに、制度周知を図ります。							
事業名称		短期入所生活援助（ショートステイ）事業							
事業概要		保護者の疾病や育児疲れ等の理由で児童の養育が困難になった場合に一時的に児童養護施設等適切に保護することができる施設で児童の保護等を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	※成果指標なし								
令和6年度	事業の目標と取組内容	施設調整を継続して行い、全ケースの受け入れを図る。							
	取組実績	利用件数においては、44件の利用があった。利用者のほとんどは定期的な利用が多く、新規利用は5件であった。うちレスパイト・ケア（育児疲れ）3件、仕事1件、旅行1件であった。							
	目標達成に向けた今後の課題	施設との調整が必要なため、急な対応が難しい時がある。							
令和6年度評価	A		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	急な対応においても、受け入れ施設と連携し、利用者にある程度寄り添った支援ができた。 過半数以上が、こども家庭センターに関連することから、今後も連携を行っていく。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		令和6年中のニーズ調査では、子育て短期支援事業に対し、利用意向が無い方に高い結果となっている。 今後は、事業の目的や制度説明など、こども家庭センターと連携し、周知・広報の強化を行っていく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		2．地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_1．地域における子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		ショートステイ・トワイライトステイ事業は、子育て支援の一環として緊急時の対応も含めて事業を継続していくとともに、制度周知を図ります。							
事業名称		夜間養護等（トワイライトステイ）事業							
事業概要		保護者が仕事等により平日の夜間又は土日等に不在となり、家庭において児童を養育することが困難となった場合、生活指導、食事の提供を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	※成果指標なし								
令和6年度	事業の目標と取組内容	施設調整を行いながら、継続して利用者全ての受け入れを図る。							
	取組実績	利用件数においては、57件の利用があった。利用者のほとんどは定期的な利用が多く、新規利用は6件であり、全てがレスパイト・ケア（育児疲れ）であった。							
	目標達成に向けた今後の課題	施設との調整が必要なため、急な対応が難しい時がある。							
令和6年度評価	A		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	急な対応においても、受け入れ施設と連携し、利用者にある程度寄り添った支援ができた。 過半数以上が、こども家庭センターに関連することから、今後も連携を行っていく。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		令和6年中のニーズ調査では、子育て短期支援事業に対し、利用意向が無い方に高い結果となっている。 今後は、事業の目的や制度説明など、こども家庭センターと連携し、周知・広報の強化を行っていく。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_3. 子どもの夢を育む遊びや学びの環境の整備							
具体的施策		次代の親となる小学生・中学生・高校生を対象として、赤ちゃんふれあい交流事業を推進し、赤ちゃんや子育て中の親との交流を通して、結婚や出産、育児、命の尊さ等について考える機会をつくっていきます。							
事業名称		赤ちゃんふれあい交流事業							
事業概要		中高生が、乳幼児とのふれあい体験を通して、生命の大切さや子どもを産み育てることの素晴らしさについて考える機会をつくります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	実施高校数		校	5	5 0	5 0	5 0	5 3	5 5
令和6年度	事業の目標と取組内容		赤ちゃんや子育てに対する理解を深めるとともに、命の大切さや親子の絆の大切さに気づき、自分自身を振り返る機会として、実施方法について検討しながら、山鹿市内のすべての高校での実施を目指す。						
	取組実績		コロナ禍も落ち着き、各学校でも少しずつ元（コロナ禍以前）に戻りつつあることを受け、今年度より山鹿市内にある全ての高等学校から、協力を得て取組を実施することができた。						
	目標達成に向けた今後の課題		少子化と未満児での入園率が高くなってきているのか、参加していただく家族を確保することが難しくなっており、子育て支援センターとしっかり連携していく必要がある。						
令和6年度評価	A		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	参加していただいた高校生からは、今後の子育てに役に立った等、また、家族からは、高校生がやさしく触れ合ってもらって、育児のから解放され、逆に高校生というんな話ができ良かったという声を聴くと、子育てへの考え方等について、とても成果があった。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		コロナ禍により、事業自体を行えない期間が3年間あったが、5類以降より再開したことで、目標値を達成することができた。高校生の子育てに対する意識や考え方、子育て中の親子等が高校生と触れ合うことで新たな発見をするなど、生命の大切さや子どもを産み育てることの素晴らしさについて考える機会がつけられた。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_ 2. 親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		保護者の子育てに係る経済的負担の軽減に寄与するため、子ども医療費の18歳までの無料化等の各種経済的支援を継続的に推進します。							
事業名称		子ども医療費助成制度の充実							
事業概要		18歳以下の子どもに係る県内医療機関等での外来分の現物給付と入院並びに県外医療機関等の外来受診の払い戻しを実施します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	※成果指標なし								
令和6年度	事業の目標と取組内容	子どもの健康保持及び子育て世帯の経済的負担軽減を図るため、18歳以下の子どもに係る医療費を助成する。							
	取組実績	95,893件、206,442,125円							
	目標達成に向けた今後の課題	課題等は特になし。							
令和6年度評価	A		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	18歳以下の子どもに係る医療費を全額助成することで、子どもの健康保持及び子育て世帯の経済的負担軽減が図られた。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		コロナ過だった令和2年度は受診控えにより、支給件数・支給額ともに減少したが、現在はコロナ流行以前の水準に戻っている。対象者数は少子化に伴って減少しているが、支給件数は横ばいであり、子ども医療費を全額助成することで早期受診や負担軽減につながっていると思われる。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1．子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_ 5．支援を必要とする子どもや子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることがないように、また、貧困が世代を超えて連鎖しないよう環境整備と教育の機会均等を図り、子どもの貧困対策を総合的に推進します。							
事業名称		子どもの貧困対策							
事業概要		環境整備のために経済的安定への支援及び教育支援を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	子どもの貧困対策事業		箇所	1	1 0	1 0	1 0	1 0	1 0
令和6年度	事業の目標と取組内容		地域の学習教室からの要望に応じた人的支援を行う。						
	取組実績		地域の学習教室からの相談・要望はなく、人的支援は行わなかった。						
	目標達成に向けた今後の課題		学習教室に関する情報だけでなく、地域における子どもの居場所に関して情報収集に努める必要がある。						
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	地域の学習教室からの相談・要望がなく人的支援の実施には至らなかったが、今後も情報収集及び要望の把握に努めていきたい。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		令和2年度から令和6年度の5年間においては、地域の学習教室からの相談・要望がなく人的支援の実施には至らなかったため、学習教室に限ることなく地域で活動する子ども支援の活動を情報収集し要望の把握に繋げる必要がある。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		子ども課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_ 5. 支援を必要とする子どもや子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		虐待や支援を必要とする子ども、DV被害の母親等への対応として、虐待・防止ネットワーク等の体制の充実を図ります。また、人権教育や講座等を通して、子どもの人権に対する意識を高める取組を推進します。							
事業名称		虐待・暴力防止ネットワーク等の構築強化							
事業概要		関係各課、機関との連携を強化し、要保護児童対策地域協議会を開催します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	要保護児童対策地域協議会		回	3	3	3	3	3	3
					3	3	3	3	3
令和6年度	事業の目標と取組内容	要保護児童対策地域協議会を年3回開催し、関係機関からの情報提供とケース支援への関係機関の連携調整を行う。							
	取組実績	当協議会の実務者会議を計画とおり年3回開催し、関係機関とのネットワークの構築の強化を図る機会となった。							
	目標達成に向けた今後の課題	健康増進課の母子保健機能とこども課の児童福祉機能の連携・強化の為に、情報共有の体制づくりが課題。							
令和6年度評価	A	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	虐待・暴力防止の為、関係各課・関係機関とのネットワークの構築の強化を図ることができた。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	令和2年度に「子育て世代包括支援センター」が健康福祉センター内に設置され、令和4年度に「子ども家庭総合支援拠点」が福祉援護課（当時の担当課）内に設置され、令和5年度に両機能を併せた「こども家庭センター」が設置となり、両機能が一体的に継続した（虐待・暴力防止の為）予防的な対応を行う体制を整える事ができた。							

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		建設課							
基本目標		1．子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_ 6．子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備							
具体的施策		子どもや保護者にやさしい道路整備や安心・安全で楽しく遊べる公園の整備を進めます。							
事業名称		安全な歩道整備							
事業概要		交通量が多い区間及び、老朽化が進んだ既存歩道の早急な改善が求められている。特に、統廃合により学校の位置が変更となり通学路に変更が生じた場合など、新たに歩道整備の必要が生じた箇所については、早急な整備が求められる。そこで道路改良工事と併せ、歩道整備及び既存歩道の補修を計画的に実施します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	歩道の整備（改修含む）延長		m	791.1	L=300m	L=100m	L=100m	L=80m	L=141m
					L=454m	L=360m	L=127m	L=80m	L=141m
令和6年度	事業の目標と取組内容	用地買収を伴う歩道については計画的に整備を行い、また、既存歩道等の早急な改善が必要な箇所について速やかに整備を行う。							
	取組実績	工事名称：大宮通花見坂線歩道整備工事 工事期間：令和6年6月24日～令和7年1月20日 詳細箇所：市道大宮通花見坂線の大宮神社交差点から鹿校通に向かう歩道未整備部分に141mの歩道を整備した。							
	目標達成に向けた今後の課題								
令和6年度評価	A	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	令和6年度の目標（予定）としていた区間の歩道整備が計画どおりにできた。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	令和2年度から6年度について、歩道の整備及び既存歩道の補修は計画どおり出来た。引き続き、通学路での歩道設置や既存歩道の補修を計画的に行うこととします。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		都市整備課							
基本目標		2．地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_6．子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備							
具体的施策		子どもや保護者にやさしい道路整備や安心・安全で楽しく遊べる公園の整備を進めます。							
事業名称		安心安全な公園施設の整備							
事業概要		本市が管理する都市公園において、「都市公園施設長寿命化計画」及び「第3次社会資本整備計画」に基づき、施設の更新工事等を計画的に実施することにより、公園利用の安全性及び快適性を向上させるとともにランニングコストの縮減や平準化を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	都市公園施設更新箇所数		箇所	2	1	1	3	2	2
					1	1	3	1	0
令和6年度	事業の目標と取組内容	更新を予定している公園について、その利用状況及び周辺住民の世代構成等を把握し、当該公園に求められる適正な施設の更新整備を進めることで、子どもたちをはじめとした利用者の安全で楽しい憩いの場を提供する。							
	取組実績	老朽化した公園施設の修繕を行うとともに、遊具点検で指摘のあった遊具の補修、ハザードの除去及び撤去を行った。利用者が安心して安全に利用できる憩いの場として、公園機能の向上を図ることができた。							
	目標達成に向けた今後の課題	利用形態の多様化が見られるため、全ての利用者が安全に気持ちよく利用できるような利用上のルールの構築とその周知が必要である。							
令和6年度評価	C	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	計画していた歴史公園の整備については、担当課で博物館の建設に関する検討が行われているため、6年度での整備は保留とした。 また、カルチャースポーツセンター街路灯の更新についても、令和4年の健全度調査で劣化が見られなかったため、今後の経過を見ながら実施時期の検討を行う。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	計画していた施設更新については、概ね実施することができた。 また、定期的な施設の巡回及び点検を実施し、施設の劣化や危険箇所については、補修や撤去等の措置を随時実施することで、子どもたちをはじめとした利用者の安全で楽しい憩いの場の提供に資することができた。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		学校教育課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_ 3. 子どもの夢を育む遊びや学びの環境の整備							
具体的施策		次代の親となる小学生・中学生・高校生を対象として、赤ちゃんふれあい交流事業を推進し、赤ちゃんや子育て中の親との交流を通して、結婚や出産、育児、命の尊さ等について考える機会をつくっていきます。							
事業名称		保育体験活動							
事業概要		実際の保育を体験することで、幼児の発達と生活の特徴を理解し、子供が育つ環境としての家族の役割について学ぶ機会をつくります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	中学生の職場体験や家庭科の授業での保育体験の実施率（5校）		%	100	100	100	100	100	100
					50	0	0	0	80
令和6年度	事業の目標と取組内容	各学校において、コロナ禍前の教育活動が展開され则认为。生徒のキャリア教育の視点から工夫した教育活動が展開できるよう学校へ提案していく。							
	取組実績	中学校において、職場体験や家庭科授業で保育体験を実施した学校は4校であった。特に、職場体験では、それぞれの学校において、保育園での職場体験を選択した生徒が、2日間に渡って体験した。職場体験後に、各学校の学年全体への共有も行った。							
	目標達成に向けた今後の課題	今後、全校で実施できるように教育課程を見直すことを中心に助言をしていく必要がある。							
令和6年度評価	B	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	令和5年度と比較して、体験学習を実施する学校が増加した。全校での実施ができるように助言が必要である。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	コロナ禍の影響を受け、3年間に渡りほぼ体験ができなかった。令和6年度にほとんどの学校が再開しており、今後の更なる体験活動が期待できる。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		学校教育課							
基本目標		2．地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_ 5．支援を必要とする子どもや子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		虐待や支援を必要とする子ども、DV被害の母親等への対応として、虐待・防止ネットワーク等の体制の充実を図ります。また、人権教育や講座等を通して、子どもの人権に対する意識を高める取組を推進します。							
事業名称		「児童の権利に関する条約」の普及							
事業概要		校内研修において人権教育を実施し、職員の意識を高めると共に、保護者に対する啓発資料等の充実を図ります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	保護者向け学校だよりPTA行事を利用した研修を実施していく。PTA研修と学校だよりでの実施率		%	100	100 53	100 100	100 40	100 40	100 85
令和6年度	事業の目標と取組内容		職員の意識向上とともに、保護者への発信についても継続的にお願いをしていく。保護者や地域への発信については、人権啓発課とも連携を図っていく。						
	取組実績		人権教育に係る研修の中で、すべての学校が教職員の研修に取り組んだ。保護者に対する啓発については、11校が実施をしていた。						
	目標達成に向けた今後の課題		PTA研修や学校だよりでの啓発を、全校が実施するよう助言する必要がある。						
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	学校だよりでの啓発は、ほとんどの学校で実施できている。PTA研修については、今後の実施を呼び掛ける必要がある。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		学校だよりでの啓発は、ほとんどの学校で実施できている。PTA研修については、コロナ禍の影響もあり、集合研修が実施できなかった年もあった。今後、全校での実施を目指す必要がある。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		学校教育課							
基本目標		2．地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_ 5．支援を必要とする子どもや子育て家庭への支援の充実							
具体的施策		発達障がいを含む特別な教育的支援を必要としている子どもの健全な成長を支援するため、合理的な配慮に基づいた学習環境づくりに取組むとともに、多様なニーズに対応するための相談体制の充実を図ります。							
事業名称		通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする子どもへの教育補助事業							
事業概要		LD、ADHD、高機能自閉症等の障がいをもち通常学級に在籍する子どもの支援を行うための補助職員を配置します。（子ども輝きプラン）							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	資質向上のためのサポートティーチャーの研修の受講率（17名×3回）		%	100	100	100	100	100	100
					100	70	70	100	100
令和6年度	事業の目標と取組内容	年に3回の研修を予定し、すべてのサポートティーチャーが参加できるよう働きかける。 特別支援教育の視点にたち、職員のニーズに合った研修を計画する。							
	取組実績	3回の研修について、全員が参加し、特別支援教育の現状と効果的な支援方法等について学びを深めることができた。							
	目標達成に向けた今後の課題	今後も継続して全員が参加できる研修を設定していく。							
令和6年度評価	A	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	3回の研修を全員が受講し、学びを深めることができた。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	コロナ禍の影響があり、全員が受講できない年もあった。その反省を踏まえてオンラインでの研修等を実施することで、少しでも参加できる環境を作ってきた。今後も、全員が学べる研修の実施方法やより充実した内容を検討していきたい。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		学校教育課							
基本目標		1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_6. 子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備							
具体的施策		下校時間帯や夜間の防犯パトロール、講演会や街頭啓発及びキャンペーンに努め、青少年が健全に育ち非行がない明るい社会を築くとともに、防犯意識の向上を図ります。							
事業名称		信頼される学校づくりに向けた安全管理に関する取組							
事業概要		職員やPTAによる校内外の巡回を実施します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	児童生徒の登下校の見守り		%	100	100	100	100	100	100
					100	100	100	100	100
令和6年度	事業の目標と取組内容	市内小学校の通学路すべてを対象として、危険箇所、改善箇所を学校より提出していただく。夏休みまでに実施する予定である。 通学路に関しての要望、改善については随時立ち合いなどを行い、道路管理者や警察署等に粘り強く働きかけを実施するとともに、解決の代替案も示していく。							
	取組実績	全ての学校において、登下校の見守り活動を実施できた。PTAだけでなく、地域住民による見守り活動も積極的に行っていた。							
	目標達成に向けた今後の課題	PTA活動や地域学校協働活動の一環として、より地域住民の協力を得て見守り活動を継続していく必要がある。							
令和6年度評価	A		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	全ての学校で登下校の見守り活動ができた。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		各学校において学校運営協議会が徐々に設定され、地域学校協働活動等も積極的に行われるようになってきた。そのこともあり、PTAだけでなく、地域の見守りがより活発に行われるようになった。今後も、地域に開かれた学校として、地域と共に見守り活動を継続していく必要がある。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		学校教育課							
基本目標		1．子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります							
主要施策		_6．子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備							
具体的施策		青少年の健全な育成を図るため、学校、地域、家庭が一体となったあいさつ運動や「学校へ行こう会」の取組を行います。							
事業名称		学校施設の開放							
事業概要		毎月15日の「学校へ行こう会」で地域の人たちや保護者を招く開かれた学校をつくります。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	年間を通じて、すべての小中学校を対象にした学校へ行こう会の実施回数		回	10	5	10	10	10	10
					5	0	9	9	9
令和6年度	事業の目標と取組内容	継続した啓発活動を実施。（やまがメイト）各学校において、学校だより等に掲載を依頼する。							
	取組実績	年間計画に基づいて、9回（4月、8月、3月を除く）実施した。							
	目標達成に向けた今後の課題	学校の状況を踏まえ、今後も年間9回の実施を継続していく。							
令和6年度評価	B	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	年間計画どおりに9回の実施ができた。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	コロナ禍の影響で、十分できなかった年もあったが、年間9回の実施が再度定着してきた。今後も、地域と共にある学校として、学校へ行こう会の継続実施をしていきたい。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		学校教育課							
基本目標		2．地域一人ひとりが子育てを温かく見守り支える体制を整えます							
主要施策		_6．子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備							
具体的施策		青少年の健全な育成を図るため、学校、地域、家庭が一体となったあいさつ運動や「学校へ行こう会」の取組を行います。							
事業名称		あいさつ運動							
事業概要		朝のあいさつ運動を実施します。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	年間を通じて、すべての小中学校を対象にした市長あいさつ運動の実施（13校）		%	100	100	100	100	100	100
					100	0	100	100	100
令和6年度	事業の目標と取組内容		あいさつを通して、学校職員や地域のボランティアの方々との交流も深めていく。早めに日程調整し、ゆとりをもった計画を立てる。						
	取組実績		3回の実施日変更があったものの、すべての小中学校において実施することができた。						
	目標達成に向けた今後の課題		今後も学校の状況に応じた日程を設定して、すべての小中学校で実施していく必要がある。						
令和6年度評価	A		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	全ての学校で実施できた。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		コロナ禍で中止になった令和3年度以外、すべての学校で市長あいさつ運動を実施できた。児童生徒と目を見て、表情豊かにあいさつを交わすことで、市長をはじめとした山鹿市や地域住民、教職員が児童生徒をしっかりと見守り交流することができた。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		生涯学習・スポーツ課							
基本目標		3．喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_3．子どもの夢を育む遊びや学びの環境の整備							
具体的施策		「親の学び」プログラムにより、講師（プログラムトレーナー）を派遣します。参加体験型の学習スタイルで、子育てのポイントを身近な話題から楽しく学んでもらう講座など家庭教育の支援を行います。							
事業名称		「親の学び」プログラムトレーナー派遣事業							
事業概要		幼・保・小・中を対象に「親の学び」講座へ講師を派遣し、家庭教育に関する研修を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	山鹿市内の幼稚園および保育園、小中学校における講座の実施率		%	86	100 27	100 17	100 51	100 49	100 56
令和6年度	事業の目標と取組内容	定期的な声かけ、養成講座の開催、家庭教育に有益なチラシ・DVD等の積極的な配布や啓発等により、実施率の向上とトレーナーの充実を図り、小中学校：100%、就学前施設：50%をめざす。							
	取組実績	家庭教育に有益なチラシ・DVD等の積極的な配布や、講座実施及び実施報告について各幼・保・小・中へ四半期ごとに周知を行った。未実施の施設・学校については声かけをおこなったが、就学前施設の実施率があがらなかった。進行役の充実については、進行役養成講座の開催により、親の学びプログラム講座のよさを啓発することができた。							
	目標達成に向けた今後の課題	①定期的な声かけや啓発及び、実施率の向上。 ②トレーナー、進行役の数を増やすこと。							
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	目標値には届かなかったが、定期的な周知と声かけを行ったことで、前年度よりも目標値に近づいた。小中学校においては、実施率が100%になった。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		コロナ禍の際には実施率が下がったが、声かけや周知により令和4年度から増加した。しかし、小中学校での実施率は令和5年度に100%を達成できたが、就学前施設では実施率が低いのが現状である。今後はさらに、就学前施設への呼びかけや周知を図っていくことが必要である。						

評価基準：目標値に対する到達率

- A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。
- B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。
- C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。
- D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課	生涯学習・スポーツ課								
基本目標	1. 子どもが夢や希望をもって、健やかに成長するための環境をつくります								
主要施策	_6. 子どもの安全確保を子育てにやさしい生活環境の整備								
具体的施策	下校時間帯や夜間の防犯パトロール、講演会や街頭啓発及びキャンペーンに努め、青少年が健全に育ち非行がない明るい社会を築くとともに、防犯意識の向上を図ります。								
事業名称	夜間巡回活動（地域の見守り活動）								
事業概要	商業施設及び少年のたまり場への巡回による非行防止や、下校時間の巡回による見守り等の活動を実施する。								
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	巡回活動の実施		回	10	10	10	10	10	10
					10	10	10	10	10
令和6年度	事業の目標と取組内容	引き続き個別巡回により見守り活動を実施する。また、青少年を取り巻く環境の変化に伴い、非行状況も多様化していることから研修会の開催を通して態様の把握に努め、関係機関との連携強化に取り組む。							
	取組実績	本年度も引き続き推進員個別に各々の地域で夜間巡回や登下校時の声掛け・見守りを実施し、地域で行われる祭りや年末に市街地の夜間巡回も実施した。また、青少年非行の態様が変わり、青少年が犯罪に安易に加担する経緯もあることから警察署の協力により研修会を開催し、青少年非行の現状把握に努めた。							
	目標達成に向けた今後の課題	青少年非行の態様の変化により、従前の見守り活動に加え、警察や学校など関係機関との連携をさらに強化していく必要がある。また、青少年の健全育成に向けた取り組みについて市民の意識向上が必要である。							
令和6年度評価	A		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	目標である個別巡回や見守り活動、研修会の開催などにより青少年の非行の傾向について把握できた。ただ、非行の態様が複雑深化傾向にあることから、さらに関係機関との連携を図る必要がある。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		コロナ禍により生活スタイルが大きく変化し、青少年の心身への影響も考えられる中で、青少年非行の態様も複雑多岐となっており、それに対応すべく警察をはじめとした関係機関と連携し、巡回活動や研修会などを開催することで概ね青少年の健全育成に向けた取り組みができた。						

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		山鹿市民医療センター							
基本目標		3．喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_2．親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		救急・夜間小児医療に対応できる体制の構築に努めます。							
事業名称		小児医療の充実							
事業概要		医師研修及び適正受診への住民啓発を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	市民医療センター小児科従事者数		人	0	1	1	2	2	2
					0	0	0	0	1
令和6年度	事業の目標と取組内容	引き続き熊大医局への訪問による情報共有と連携強化を主とし、小児科常勤医複数体制を目指す。							
	取組実績	令和6年度に山鹿市医師修学資金貸与者である小児科常勤医1名を確保することができた。これにより週5日の外来診療に加え、月2～3回の当直体制による時間外、休日の診療が可能となった。							
	目標達成に向けた今後の課題	救急、夜間等に幅広く対応するための複数小児科常勤医の確保							
令和6年度評価	B	令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	小児科常勤医1名を確保することができたが、複数体制の構築は未達成であった。						
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価	長年にわたり非常勤医師での小児医療体制であったが、令和6年度からの常勤医確保による診療体制の拡大により、住民サービスの向上に繋がった。							

評価基準：目標値に対する到達率

A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。

B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。

C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。

D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。

山鹿市子ども・子育て支援事業計画（第2期） 事業取組表

所管課		山鹿市民医療センター							
基本目標		3．喜びや生きがいを感じながら子育てのできる体制づくりを目指します							
主要施策		_ 2．親子の健康の確保及び増進							
具体的施策		救急・夜間小児医療に対応できる体制の構築に努めます。							
事業名称		小児医療・時間外小児医療の充実							
事業概要		医師研修及び適正受診への住民啓発を行います。 また、小児科常勤医の確保に努め、安心できる医療提供を行います。							
成果指標	指標名		単位	基準値	目標値（上段）：実績値（下段）				
				R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)
	市民医療センター小児科従事者数		人	0	1 0	1 0	2 0	2 0	2 1
令和6年度	事業の目標と取組内容	引き続き熊大医局への訪問による情報共有と連携強化を主とし、小児科常勤医複数体制を目指す。							
	取組実績	令和6年度に山鹿市医師修学資金貸与者である小児科常勤医1名を確保することができた。これにより週5日の外来診療に加え、月2～3回の当直体制による時間外、休日の診療が可能となった。							
	目標達成に向けた今後の課題	救急、夜間等に幅広く対応するための複数小児科常勤医の確保							
令和6年度評価	B		令和6年度評価の要点 (成果及び反省)	小児科常勤医1名を確保することができたが、複数体制の構築は未達成であった。					
総評価	令和2年度から令和6年度の5年間の総評価		長年にわたり非常勤医師での小児医療体制であったが、令和6年度からの常勤医確保による診療体制の拡大により、住民サービスの向上に繋がった。						

評価基準：目標値に対する到達率

- A：100%以上であった。又は同等の効果を達成することができた。
- B：70%以上100%未満であった。又は同等の効果を達成することができた。
- C：40%以上70%未満にとどまった。又は同等の効果であった。
- D：40%未満にとどまった。又は同等の効果であった。未実施であった。

※評価基準と異なる評価となった場合は、その理由を「成果及び反省」欄に詳しく記入してください。